

リポート Report

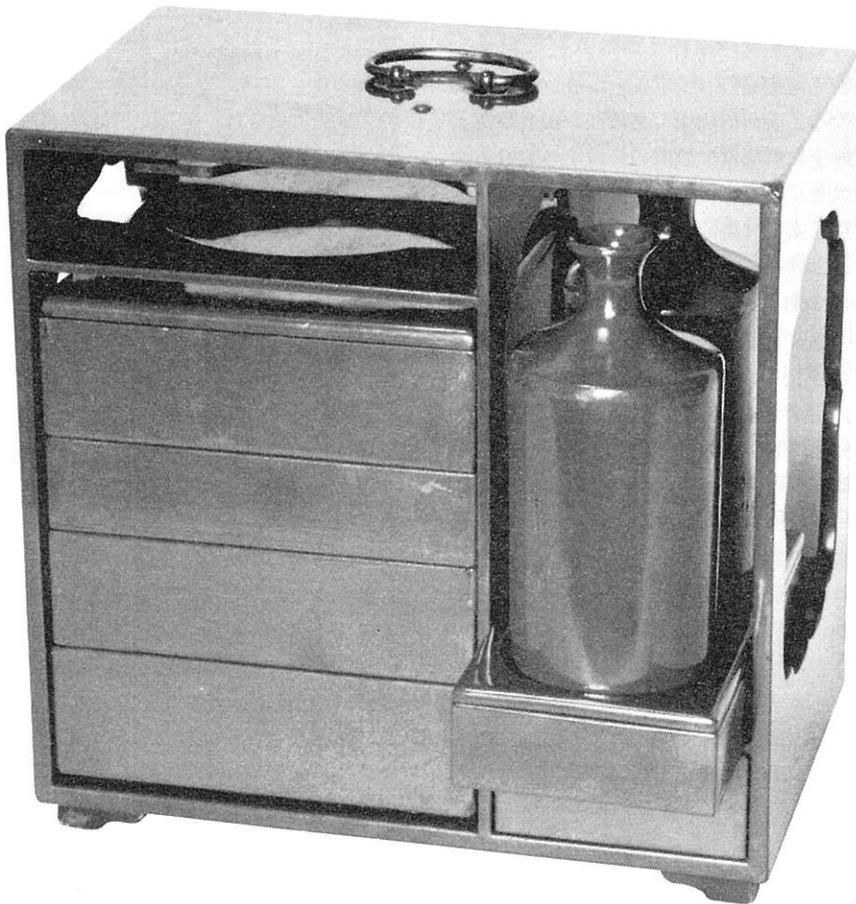
大磯町郷土資料館だより

2006・2・1

26

もくじ

- ◇江戸民具街道／大磯町郷土資料館共催展Ⅱ『酒－宴の道具－』 2
- ◇企画展『県立大磯城山公園の植物～ワークショップ
“草と木の調査”の活動成果を中心に～』展示概要 4
- ◇2005年 ウミガメ情報 6
- ◇トピックス 7
- ◇行事案内／書籍案内／資料の受入 8



花見道具（江戸民具街道蔵）

江戸民具街道／大磯町郷土資料館共催展Ⅱ 『酒－宴の道具－』

はじめに

大磯町郷土資料館では、平成18年2月5日(日)から5月7日(日)まで、『酒－宴(うたげ)の道具－』と題した展示を開催いたします。この展示は、神奈川県足柄上郡中井町にある博物館(江戸民具街道)との共催による企画で、平成16年度に開催した共催展Ⅰ『灯(あかり)』に続き、2回目の共催展となります。

近年、博物館をめぐる情勢は大きく変わりつつあります。同時に、博物館利用者の知的欲求も多様化してきました。このような環境の変化に、博物館もみずからが認識を新たにしながら変革する努力を続けています。そのためには、博物館同士のネットワークはたいへん重要であり、博物館活動の大きな力となることは疑いようありません。そのような考えから、当館では、他博物館との共催展などを、積極的に取り入れています。

私設博物館と公立博物館のコラボレーション

さて、いわゆる私設の博物館である江戸民具街道と公立の大磯町郷土資料館は、設置の経緯から運営方法にいたるまで大きく異なります。しかし、博物館の目的や理念は、膝を交えて議論することで相互に理解し連携を深めることが十分に可能であると考えています。このような考えのもと、「私設博物館と公立博物館のコラボレーション」と銘うって昨年度に開催した共催展Ⅰ「灯(あかり)」は、一定の成果をあげたものと考えています。会期中に協力をいただいたアンケートにおいても、私設博物館と公立博物館の共同企画に対しては、好意的に受け止められました。ただし、両館共催の展示は、展示室等の事情から巡回展とすることはむずかしい状況です。したがって、前回同様に今回の展示も大磯町郷土資料館のみを会場として開催することにしました。ただし、江戸民具街道においても、大磯会場で紹介することのできなかつた資料を公開展示しています。そこで、あわせてご覧いただけるように、今回はチラシの案内図に、両館の位置を描き入れ、それぞれの館へのアクセスを明示し誘客を図っています。

酒の歴史

稲を原料として造られたものを「日本酒」とするならば、その歴史は弥生時代から縄文時代晩期までさか

のぼると考えられます。

古代、酒はキ・ミキ・ミワなどと呼ばれ、穀物の収穫に際しての神饌、いわゆる神への供え物でした。現在でも、秋の収穫祭に際して甘酒を造る事例も多く、岐阜県飛騨地方の白川村で行われている「どぶろく祭り」はよく知られています。

また、古くはカミ酒ともいわれ、聖女が口に含んだ米を噛んで醸(かも)したものと考えられています。平安時代中期に記された『土佐日記』には、酒を食べるという言い方がみられますが、古くは濁酒であり、飲むというよりは食物に近かったようです。今日の清酒に近いものが造られるようになったのは、室町時代以降と考えられています。この頃から各地で酒造りが盛んになってきますが、近世になっても、庶民は濁酒(どぶろく)が一般的でした。現在、私たちが目にしている清酒が普及したのは、そう古いことではありません。本展示の資料中には、このような清酒以前の名残りを示すものを数多く見ることができます。

酒はみんなで飲むもの

人々は、季節や作業の節目に神をまつり、神に加護を求めてきました。その際、神前には酒が供えられ、「御神酒」は、皆に振る舞われ、喜びを分かち合い、清らかな力を与えてくれます。

酒の特徴のひとつに、「定められた時と場所で、皆で飲む(酒盛り)」ということがあげられます。これは、本来ひとつの甕で醸(かも)した酒を飲み、ひとつの火で調理した食物を食べることに大きな意味がありました。たとえば、婚礼では、三三九度の盃事において、同じ酒を同じ盃によって飲むことで一体感が生まれ、結婚が約束(契約)されます。次いで、参列者にも酒や食物が振る舞われ、結婚が社会的にも認められることとなります。

私たちが生まれてから死ぬまでに経験する儀礼にも、常に酒が関わっています。年祝い、婚礼、葬送にいたるまで、祝儀や不祝儀の区別なく、酒がたいせつな役割を果たしています。酒を通して、私たちの暮らしぶりや、日本の社会性までうかがうことができそうです。

人と酒と道具

人と酒が築きあげてきた関係は、さまざまな文化を育んできました。本展示では、人と酒のかかわりについて、道具(酒器)を媒介として探ろうと考えました。そこで、いくつかのキーワードを用意してみました。

醸す 貯える 注ぐ 祈る 祓う 浄める 祝う
 弔う 供える 慶ぶ 酌み交わす 楽しむ 運ぶ
 飲む 酔う 振る舞う もてなす

本展示では、江戸民具街道が長年にわたって収集している酒器コレクションを中心に紹介します。酒器はバラエティに富んでいます。時に厳粛に、時に美しく、時に楽しく、時に機能的に、時に驚きの工夫があったり…。酒器の持つ意味や機能、素材、形態、意匠、美しさなど、キーワードを手がかりとしながら、人と酒と道具の関わりについて考えてみてはいかがでしょうか。

(当館学芸員 佐川和裕)



角樽 (江戸民具街道蔵)

展示資料一覧

資料名	数量	所蔵者	備考	資料名	数量	所蔵者	備考
角樽	2	江戸民具街道	家紋入	花月台と盃	1組	江戸民具街道	
角樽	2	江戸民具街道		馬上盃	1	江戸民具街道	柄杓形
角樽	1組	江戸民具街道	婚礼用、白木	馬上盃	1組	江戸民具街道	高台付
角樽	2組	江戸民具街道	婚礼用、箱入	猪口	2	江戸民具街道	
酒樽	3	江戸民具街道		酒壺	2	江戸民具街道	
鏡樽	1	江戸民具街道	上棟式用	酒壺	1	江戸民具街道	輸出用
指樽	2	江戸民具街道		酒壺・徳利	1組	江戸民具街道	
酒筒	2	江戸民具街道		大徳利	1	江戸民具街道	
酒筒	1	江戸民具街道	背負形	徳利	20	江戸民具街道	
酒筒	1	江戸民具街道	刀拵形酒筒	徳利	3	江戸民具街道	注口付
通い樽	1	江戸民具街道		船徳利	1	江戸民具街道	
花見樽	3	江戸民具街道	貸し樽	らっきょう徳利	1	江戸民具街道	
花見樽	4	江戸民具街道		いも徳利	1	江戸民具街道	
花見道具	1	江戸民具街道	手堤形	雲助徳利	1	江戸民具街道	
花見道具	2組	江戸民具街道	担ぎ形	看板	1	江戸民具街道	
花見道具	1	江戸民具街道	箱型、花見弁当	引札	2	江戸民具街道	
爛鍋	1	江戸民具街道	錫製、脚付	錦絵	4	江戸民具街道	豊国、国周ほか
爛鍋	2	江戸民具街道	銅製	通い徳利	15	当館	
爛道具	9	江戸民具街道		酒樽	5	当館	陶器製
爛道具	3組	江戸民具街道		雛人形	3	当館	三人官女
銚釐(ちろり)	1組	江戸民具街道		花見道具	2	当館	雑道具
酒上げ(ひあげ)	4	江戸民具街道		盃台と盃	2組	当館	雑道具
片口	3	江戸民具街道		盃	2	当館	雑道具
両口銚子・銚子	1組	江戸民具街道		徳利	4	当館	雑道具
両口銚子	1	江戸民具街道		雄蝶雌蝶	1組	当館	稲荷講道具
くりぬき銚子	1組	江戸民具街道		盃台と盃	1組	当館	稲荷講道具
銚子	3	江戸民具街道		盃	3	当館	米寿祝
銚子	1組	江戸民具街道		盃	3	当館	小学校80周年記念
銚子	1組	江戸民具街道	文政12年箱書	盃	7	当館	除隊記念
盃洗	4	江戸民具街道		盃台と盃	1組	当館	除隊記念
盃台と盃	2組	江戸民具街道		オカマサン	1	当館	自在鉤
花月台	1	江戸民具街道		半纏	2	当館	酒屋の半纏

企画展「県立大磯城山公園の植物～ワークショップ「草と木の調査」の活動成果を中心に～」展示概要

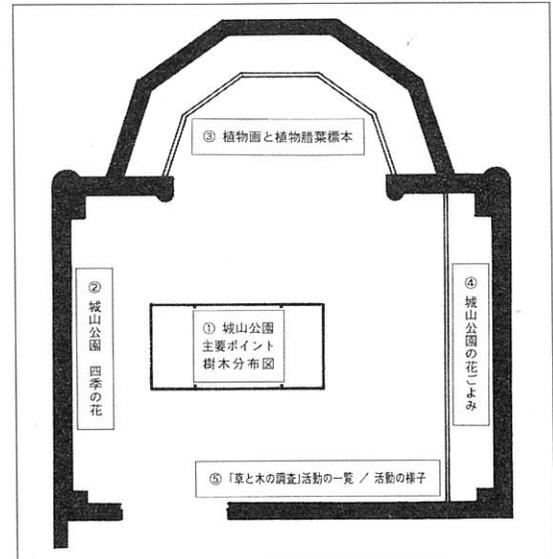
大磯町郷土資料館では、平成17年10月23日から平成18年1月15日まで、企画展「県立大磯城山公園の植物」を開催しました。内容はワークショップ「草と木の調査」で、平成13年4月から平成17年9月にかけて行った城山公園の植物を対象とする各種調査の結果をまとめたもので、展示を通して植物を中心とする公園の散策情報を広く公開し、同園利用の活性化を目的に開催したものです。本展は自然史系の企画展としては、新たな試みとして展示の準備・設営を同ワークショップ参加者と共同で行いました。本展開催にいたる経緯と展示概要を紹介します。

1. 経緯

ワークショップ「草と木の調査」の活動は平成11年度から行っています。本ワークショップを立ち上げる以前は、年に数回、自然観察会を行っていましたが、開館10年を契機に教育普及活動事業のあり方を見なおし、継続して活動できる内容へと切り替えました。平成11・12年度は第1次調査として大磯町全域を対象に秋の植物の分布調査を行い、平成13年度からは第2次調査として、県立大磯城山公園の植物について調査をしています。城山公園は当館が位置する公園であり、公園の植物の現状を掌握することは当館の活動において意義あることと思われ調査対象とした次第です。調査は主に花ごよみ調査を中心に、並行して樹木調査などを行いました。年に20回の調査会の実施とともにワークショップ参加者である石井竹夫氏が調査会実施日以外にも個人的な調査を進められたことにより、開始して2年でかなり詳細なデータを得ることができました。データの検証を目的にその後も引き続き、調査を続け、平成15年度末ごろから活動成果の公表について検討し始めました。第1次調査である「秋の植物分布調査」の時に調査活動のまとめとして企画展『「草と木の調査～秋の植物～」速報展（平成13年1月7日～2月18日）』を実施したこともあり、今回も同様に企画展の実施を考えました。資料館活動の事業計画から開催は平成17年の秋となり、作業は本年度5月から始めました。企画展示室・展示器材の下見や展示構想についてのミーティング等を行い、並行して造作物作製がスムーズに行えるように実習として文字パネル、写真パネルの作製を行いました。展示構想については他館の特別展見学や事前の展示イメージ作成の呼

びかけなどもあり、スムーズにまとまりました。展示室内での作業に入ると、それぞれの展示スペースに何を系統立てて展示するか決まっていたましたが、細かな展示方法についてはその都度、打ち合わせが必要で多少、難航した部分はありましたが、無事、開会を迎えました。

2. 企画展「県立大磯城山公園の植物」の展示概要



企画展示室内での展示構成（面積：84.12㎡）

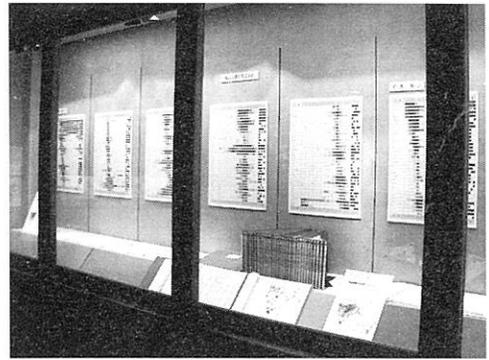
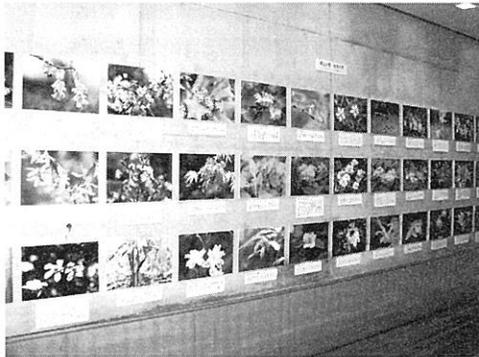
①城山公園主要ポイント樹木分布図

城山公園はかつて、三井財閥総本家の別荘地でした。面積は約7ha、園内には古来よりこの場にあったと思われる樹木、別荘として管理された時代に植樹されたと思われる樹木、また県立公園として整備されるようになってから植樹された樹木と多様な植物相になっています。本コーナーでは展示の導入的意図から公園の全体像が分かるように城山公園の地図を示し、園内の主要箇所で見られる樹木の位置を地図上に記し、紹介しました。



②城山公園 四季の花

城山公園では四季を通じて様々な花を目にすることができます。本コーナーでは園内で見られる花のうち48種類を選び、開花時の写真に解説を付し、紹介しました。展示した写真、解説はともにワークショップ参加者である石井竹夫氏にご提供いただきました。解説は植物の形態的特徴や名前の由来、町内での分布状況、葉効などを中心にまとめていただきました。

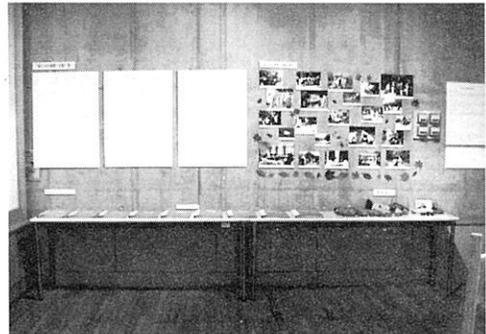


⑤「草と木の調査」活動一覧／活動の様子

活動は毎月第2・4土曜日を中心に年20回程度行っています。平成13年4月から平成17年9月までの期間で計88回の調査活動を行い、この間に56人（延べ人数894人）の方にご参加いただきました。本コーナーでは各回の活動内容を紹介しました。また、「草と木の調査だより」や調査会当日配布した資料なども参考に展示しました。

③植物画と植物腊葉標本

植物画30点と植物腊葉標本25点で展示を構成しました。ワークショップ参加者の方で、ボタニカル・アートのサークル活動をされている方がいられ、その方のアイデアで小テーマの一つとなりました。本コーナーのねらいは植物画と標本の両方を比較して観みることで、植物の細部の観察を促すというものです。植物画は本ワークショップの参加者及びボタニカル・アートのサークル「千草の会」の会員の方々からお借りました。



④城山公園の花ごよみ

4年半にわたる活動の中で、園内において約500種の種子植物が確認されています。主要となる草本170種、木本99種を選び、花ごよみをパネル化し、紹介しました。花ごよみの表以外に調査票など調査関連資料を参考資料として展示しました。

3. 企画展「県立大磯城山公園の植物」を振り返り

企画展開催までの経過を振り返り、感想を述べると、このたびの企画展はご協力いただいた一人一人がそれぞれの得意の分野で力を発揮されたことが、変化のある展示へと結びついたのではと考えます。植物をコアに写真、絵画、標本、生花など出展可能な資料を抽出し、それぞれを系統立てて展示を行う。種々形状の異なる資料の収集及び展示作業には、それぞれに関する知識・経験が必要であり、展示に携わった多くの方のご尽力によりできたのではないかと考えます。私自身、多くの方と一緒に一つの展示を作るという作業は初めての経験で、不行き届きの点が多々あったように思います。お忙しい中、展示にご協力いただきましたワークショップ参加者の皆様には、心より感謝申し上げます。
(当館学芸員 北水慶一)

2005年 ウミガメ情報

本誌ではNo.23(2002年11月30日発行)より毎回、ウミガメ情報を掲載しています。本号でも引き続き、確認状況を紹介します。

大磯町では2001年以降毎年、ウミガメが確認され、当館に情報が寄せられています。情報としては、産卵とストランディング(漂着)に関する情報が主であり、産卵については2002年8月、2004年7月の2度、情報が寄せられました。ストランディングについては2001年が3個体、2002年が4個体、2003年が3個体、2004年が5個体と平均して3~4個体が確認されています。本年は産卵に関する情報はありませんでしたが、ストランディングについては記録を取るようになってから、最も多い7個体の情報が寄せられました。以下、本年のストランディング情報を紹介します。

<2005年ストランディング情報>

- ①アカウミガメ(標準直甲長75.5cm 直甲幅59.0cm) / 2005年7月2日、大磯町大磯の北浜海岸で確認。
- ②アカウミガメ(標準直甲長83.4cm 直甲幅63.6cm) / 2005年7月10日、大磯町大磯の北浜海岸で確認。
- ③アカウミガメ(標準直甲長82.0cm 直甲幅67.1cm) / 2005年7月20日、大磯町西小磯の海岸で確認。
- ④アカウミガメ(標準直甲長68.0cm 直甲幅54.3cm) / 2005年7月22日、大磯町西小磯の海岸で確認。
- ⑤アオウミガメ(標準直甲長77.1cm 直甲幅60.7cm) / 2005年8月4日、大磯町国府新宿の海岸で確認。
- ⑥アカウミガメ(標準直甲長71.0cm 直甲幅60.8cm) / 2005年8月4日、大磯町東小磯の海岸で確認。
- ⑦アカウミガメ(標準直甲長約70cm 直甲幅約60cm) / 2005年8月16日、大磯町国府本郷の海岸で確認。
白骨化が進み、甲長、甲幅の正確な数値は計測不能。



①アカウミガメ(7月2日漂着)



②アカウミガメ(7月10日漂着)



③アカウミガメ(7月20日漂着)



④アオウミガメ(8月4日漂着)

<近年のストランディングの状況>

当館が開館し記録をとり始めた1988年以降、28個体の漂着個体が確認されています。このうちの約79%にあたる22個体は2001年以降に確認されたものです。近年、漂着個体数は増加傾向にありますが、その中でも本年の7個体は非常に多い数字です。また、漂着個体の種類も2001年以前はすべてがアカウミガメでしたが、2002年以降、個体数は多くありませんが、アオウミガメ、タイマイ、オサガメが確認されています。

2003年4月より、当館はウミガメのストランディング調査に関して、ウミガメの生態について調査研究を行っている団体、NPOエバーラスティング・ネイチャーと協力体制をとっています。エバーラスティング・ネイチャーは関東周辺エリアを対象にストランディング情報を収集し、また、漂着場所において死体を解剖し、生殖腺や消化器官などのデータを集めています。当館での調査は大磯町周辺地域に漂着した個体の写真撮影や甲長・甲幅の計測に止まるのですが、エバーラスティング・ネイチャーと情報交換をすることで、他の地域の情報が得られるようになり、状況を比較することで、

当町におおけるストランディングの傾向をつかめるようになってきました。また、昨年9月にエバーラスティング・ネイチャーより甲長計測用のノギスをご寄贈いただいたことで、mm単位での直甲長の計測が可能となりました。今後も協力し、情報を共有することで、大磯町周辺海域におけるウミガメの回遊の状況等が分かってくるのではないかと思います。

	アカウミガメ	アオウミガメ	タイマイ	オサガメ	合計
1988年	1	0	0	0	1
1991年	1	0	0	0	1
1993年	1	0	0	0	1
1994年	2	0	0	0	2
1996年	1	0	0	0	1
2001年	3	0	0	0	3
2002年	2	0	1	1	4
2003年	3	0	0	0	3
2004年	2	2	1	0	5
2005年	6	1	0	0	7
合計	22	3	2	1	28

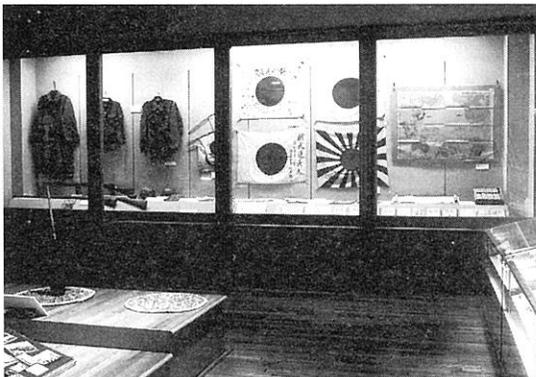
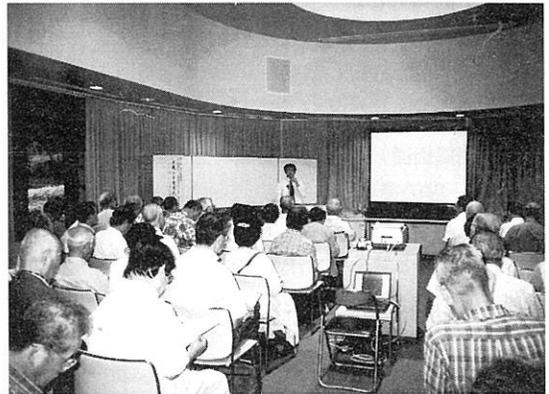
1988年以降のストランディングの状況

(当館学芸員 北水慶一)

【トピックス】

◇文化財講座『古墳時代の大磯』

働かながわ考古学財団との共催事業として、平成17年7月3日(日)に開催しました。大磯丘陵には、全国屈指の密集地帯である横穴墓群をはじめ、数多くの古墳時代の遺跡が存在しています。今回の講座は、テーマを『古墳時代の大磯』とし、Ⅱ部構成の講話形式としました。第Ⅰ部は「大磯町域の横穴墓群」と題し、大磯町域の横穴墓研究史、発掘調査の成果等を、当館の國見徹学芸員が紹介しました。第Ⅱ部は働かながわ考古学財団調査研究部の須藤智夫さんが、「大磯の古墳時代を考える」と題し、『大磯町史』に伴うみずからの研究成果等に基づき、大磯丘陵における古墳時代を概観されました。今回の講座では、大磯町内をはじめとして、県内各地より80名の方々にご参加いただきました。



◇戦後60年記念ミニ展示

「館収蔵資料による 戦時下の暮らし」

平成17年度の第1回企画展（ミニ展示）として、平成17年7月23日から9月4日まで開催しました。

昭和20年（1945）8月15日の大太平洋戦争終結から60年の歳月がたち、憲法や靖国神社参拝等の議論とともに、先の戦争の意味をあらためて問い直そうという気運が生まれているなかで開催したものです。

これまで資料館が収集してきた数々の博物館資料のうち、戦争と戦時下の暮らしにかかわる資料を紹介しました。ささやかな展示でしたが、過去の戦争を振り返るとともに、これからの日本の平和を考える契機となれば幸いです。

◇一部展示替え

常設展示室の小コーナーを展示替えしました。これは毎年実施している博物館実習生（本年度は5大学5名）による実技実習の一環としておこなったものです。

当館では、2週間にわたる実習のうち、後半は展示替実習として、企画、列品、リーフレット作成に至るまで、すべて実習生みずからの手で完成させることを課題としています。今回は「照ヶ崎海岸物語ー生き物たちの不思議ー」というテーマで展示をしました。アオバトの飛来や、岩礁内のタイドプール（潮だまり）に多彩な海辺の生き物が見られる照ヶ崎海岸の魅力を紹介しています。実習生の渾身の作であるタイドプールのジオラマを、ぜひご覧ください。



【行事案内】

みなさんのご参加をお待ちしています。詳しくは町広報をご覧ください。資料館へ直接お問い合わせください。

▼企画展

江戸民具街道／大磯町郷土資料館・共催展Ⅱ

『酒 一宴の道具ー』

平成18年2月5日(日)＝5月7日(日)

中井町にある博物館・江戸民具街道との共催展です。平成16年度に開催した共催展『灯(あかり)』に続く2回目の企画です。大磯町郷土資料館を会場として、江戸民具街道の酒器コレクションを中心に、約200点を展示いたします。また、期間中にはギャラリートーク(展示解説)もおこないます。

なお、江戸民具街道においても、大磯会場で紹介できなかった資料を公開展示しています。

ギャラリートーク

2月25日(土)・3月25日(土)・4月22日(土)

いずれも午後1時30分～3時30分(随時)

▼海の教室「ビーチコーミング」

照ヶ崎と北浜海岸で漂着物をひろいます。雨天の場合(前日夜の降雨確率50%以上)は中止。申し込みは不要です。直接現地へお集まりください。

日時／3月5日(日)

【書籍案内】

・『大磯町郷土資料館収蔵資料目録 民俗(生活)資料ー食ー』(資料館9)／平成17年3月刊

当館の収蔵資料のうち、民俗(生活)資料の食生活に分類される資料目録です。

本目録に掲載されている資料のほとんどは、大磯町内外の方々からの寄贈資料ですが、今回は購入資料も含まれています。これは、小田原市国府津にあった食器を中心とした陶磁器類の卸(小売)業を営んでいた店からのもので、同店が閉店するにあたって、日常雑記を中心に購入(一部受贈)したものです(その後、同店の建物は国の登録文化財となりました)。また、高度経済成長期以降の現代資料(一部の電化製品など)を収集・分類していることも特徴といえます。全体の総数は3,689点に及んでいます。A4版36頁。館内の閲覧机にも常備しています。

【資料の受入】

(寄贈) ご協力ありがとうございました。

東町	原 庸道氏	灯火管制用電球	他
大磯	宮代伊佐雄氏	ソロバン	他
大磯	飯田福信氏	ボディボード	他
大磯	福沢真五氏	五月人形	
大磯	渡辺泰亮氏	大磯町水道一覧図	
大磯	安倍川マリ氏	婚礼の着物	他
大磯	加藤嘉義氏	レコード	他
大磯	山本武男氏	桶職人道具一括	
大磯	鈴木勝一氏	レンタンヒバチ	他
大磯	木村純子氏	昆虫標本	他
東小磯	新見由美子氏	小田原提灯	他
西小磯	笠間康男氏	古写真	他
西小磯	鈴木 昇氏	古写真	他
西小磯	波多野浩二氏	焼夷弾	他
国府本郷	原田好夫氏	ウナイグワ	他
国府本郷	石川和男氏	子ども神輿	
国府本郷	加藤広美氏	大祓形代	
二宮町	石塚アヤ子氏	乳母車	他
二宮町	西山敏夫氏	漁具一括	他
二宮町	峯尾一郎氏	耐火煉瓦	他
横浜市	佐野クミ子氏	左義長墨彩画	
小田原市	大石浩準氏	ソロバン	
世田谷区	野村榮一氏	松本順のサーベル	
埼玉県	堀越洋子氏	土器	他
西小磯東・西区		ヤブサメの的	

(製作)

当館 這子人形

(購入)

泰川堂書店 絵はがき
古書街の風 書籍

Report -大磯町郷土資料館だより- No.26

平成18年2月1日

編集発行 大磯町郷土資料館
〒255-0005 神奈川県大磯町西小磯446-1
TEL. 0463(61)4700
FAX. 0463(61)4660
<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/>